



前向き子育て定期便 令和3年9月
子どもの基本的な生活習慣の習得をめざして



前向きな学びの環境とは、家の中で子どもが安心して前向きな気持ちで、学び過ごせるように親が関わり作っていくものです。その為には子どもが夢中になれる「楽しい」「学びたい」と思えることが家の中にあり、親が前向きな関わりや声掛けをすることが大切になるでしょう。



①子どもが親のところに近寄ってくる時に、親は子どもと向き合しましょう。

子どもにとっての大切な時は「ママ聞いて」「パパ見て」と親に寄ってくる時です。おそらく、子どもにとっての瞬間、瞬間の自分が一番うれしかったことや聞いてほしいことや助けてほしいことを親に伝えたい時でしょう。そのような状況で親が向き合い対応すると、子どもは安心を覚え自分が大切にされていると感じやすくなり、自尊感情が育つでしょう。また、そのような関わりの中で子どもは自分が必要とする時に、親は自分のことを大事に思ってくれる頼りになる存在だと感じる機会になるでしょう。

ポイント！長い時間を1回より30秒～2分を数多く



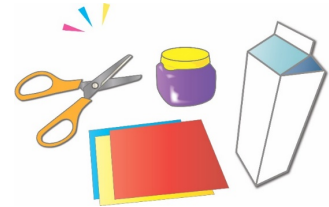
「ママ聞いて」「パパ見て」その時に「ちょっと待って後で」など対応をすると子どもは、どうなるでしょう？

おそらく子どもは、親に話しかけても相手にしてもらえなければ、親の気を引く行動を考えるでしょう。例えば、大きな声を出して困った行動をしたり、ぐずり始めるかもしれません。親は、そんな子どもの行動に対して、落ち着いて対応ができずに、お互いがエスカレートしやすくなる状況になる可能性があります。また、子どもは人のまねをして、いろいろなことを覚えていくので、親が子どもに対して声をかけた時などに「ちょっと待って」と親のまねをするかもしれません。このような対応が家庭の中で繰り返されていくと親子の関係が難しくなるでしょう。



②子どもに対して、できているところを伝えてから応援しましょう。

「自分でやってみよう」と励ますことが子どもの学ぶ力を育てます。親は子どもの行動を励まし、前向きな注目を向けましょう。前向きな注目とは子どもの良い行動に、親が声掛けして伝えることです。子どものよい行動に注目し、励ましていくと子どもは、その行動を繰り返すでしょう。子どもには、家庭の中での成功体験「小さな、できた！」を数多く体験させましょう。そのような環境は、子どもが前向きに学びたいという気持ちを育てていくでしょう。



例) 目標：くつ下をはく

子どもを見てみると、左のくつ下が逆さまになっているので、左のくつ下がスムーズに足へ入っていません。

子ども 「ママ～、くつ下は無理、はけない～」

ママ 「たろう君、頑張って、くつ下はいたね」

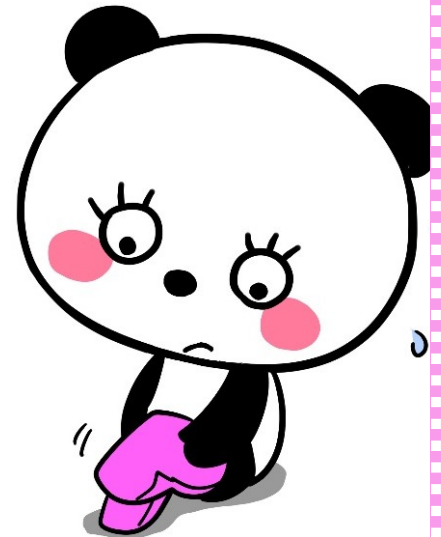
ママ 「右のくつ下を見てごらん、上手にはいてるね。左のくつ下と、どこが違うか分かるかな？」

子ども 「分かった！ぼくの名前が見えていない」

ママ 「良く気づいたね。じゃあ、左のくつ下をはいてみようか」

子ども 「できた！」

ママ 「たろう君、上手に両方のくつ下をはいたね」



はじめは誰でも失敗することは多いでしょう。だから親は、子どものできているところに注目し、励ましていくと達成に近づきます。また、子どもは自分の行動に前向きに励ましてくれる親がいることで安心を覚え、良い行動が繰り返されていくでしょう。



今月の定期便についての感想や質問をお聞かせください。

■お問い合わせ

子ども未来課子育て支援係 ☎ 28-7568

科学研究費助成事業（責任者 福岡県立大学 江上千代美）

無断複写・複製を禁ず